

2025.10.25 免疫/感染症セミナー

1.今日のセッションの中で、一番心の中に残ったことを教えてください。

宮坂先生の感染症と癌と免疫の話題はいままでわからないままにしていたパズルのピースがいくつか結びつくような素晴らしいものでした。

コロナワクチン効果数字でもよくわかりました。今まで以上に熱心に進めてあげられるように思います。

感染性治療が詳しくわかりました

世界3大ご法度を再確認できたこと

mRNA ワクチンと免疫チェックポイント薬の併用でがんの治療が奏功するという話は興味深かったです。

蜂窩織炎の下に骨髓炎を疑うということを大事にしていきたいです。

癌と mRNA の効果について

コロナ感染で IQ 低下、緑膿菌に手を出すか出さないか、GNR の変化。

コロナと悪性腫瘍のお話

コロナ感染での後遺症（認知機能低下）や、癌の免疫治療機序について。グラム陰性感染症の進行、臓器別感染症のトリビア、トピックスなど多大な情報を聞かせていただいた。

がん免疫の話

宮坂先生の講義を聴講しました。膨大な資料をわかりやすく提示いただき大変勉強になりました。

2025.10.26 感染症セミナー午前の部

1.今日のセッションの中で、一番心の中に残ったことを教えてください。

感染対策とはなにかをできなくするようにするものではなく、できるようにすること。目からうろこの視点でした。

消毒や滅菌の話とても勉強になりました。明日は看護師さんたちに教えてあげます。

イベントを中止ではなくできるように考えていくこと

臨床写真を NEJM に載せるのはチャレンジしがいがありそうです。あの忽那先生でさえ何回も reject された、ということがかえって励みになります。

経口薬 vs 点滴

感染対策は「しないこと」を決めるのではなく、「できること」を見つける

感染症の写真が非常に鮮明に頭に残りました。

感染症対策は、「できないようにするのではなく、どうすればできるかを考えること」と教えて頂き、深く感銘を受けました。また発熱や感染を繰り返す患者さんに対して、「またあの人、感染起こしているわ」など医療者の発言・医療者の思考が麻痺していると伺いし、私自身にも思いあたることがあり、大変、貴重な示唆を与えて頂きました。患者さんが悪い訳ではなく、感染予防対策ができていない自分の医療を振り返ってみます。

モラキセラと思ったら髄膜炎菌。

藤田先生の話は良かった

内服抗菌薬の study

普段当院で行なっている消毒、オートクレーブの手順について確認してみようと思った。消毒綿は自前で作っていますが、包装されているアルコール綿が経済的にいいか聞きたかった。

機器や材料の消毒・滅菌について勉強になりました。

忽那先生の NEJM を目指そう。一例一例を大切にしている先生のスタンスがかっこいいです。

2025.10.26 感染症セミナー午後の部

1.今日のセッションの中で、一番心の中に残ったことを教えてください。

AI の現状について

忽那先生の AI 利用の具体例がわかりやすかったです。

忽那先生の生成 AI 使った資料作成

医学的適応はもちろん重要だが、あくまで patient-centered なアプローチが重要、という佐田先生のメッセージが熱く響いた。

経口薬と点滴抗生剤の効果が同等

笠原先生の感染症対策は予防が治療より尊いというお話

経口抗菌薬

忽那先生講演はわたしが普段から使用していないのでやり方難しく感じた。佐田先生講演は細かい経口抗菌薬の使用法を学べた。

抗菌薬のエビデンス

AI の使い方。

お二人とも良かったです！ AI の話は興味深かったです

忽那先生

経口抗菌薬の整理ができました。いろんな薬がありますがシンプルに使い分けるようにします。バクタも自信持って使えそうです。感染対策は治療ではなく予防が重要だということ。 covid-19 と癌の関連は興味深かったです。 機会を見つけて NEJM に投稿してみたいと思います。

感染症は治療するより予防する方が尊い

他のクリニックの先生が不適切に抗生剤を投与していることについて批判するよりも、まず自分自身が患者さんにとって良い診療をすることを心がけている、という佐田先生のお言葉に感銘を受けました。設定は異なるのですが、著明な収縮期高血圧 210mmHg、視力低下している患者さんを近隣の眼科の先生が紹介されてきた時に、思わず、眼科の先生について患者さんの前で批判してしまいました。批判することは止めようと思います。

AI の発展

Legionella 感染症確定以外では肺炎に対して AZM の使用を控えた方がよいということ